

第1回 課題提案型ワークショップ「ビッグデータの利活用について考える」 分科会情報

分科会	機関名	タイトル	概要
1	株式会社イズミ	自社の販売データ、顧客データの有効活用	株式会社イズミは、中国・四国・九州で大型ショッピングセンター「ゆめタウン」の出店や、食品を中心とした「ゆめマート」等の店舗を中心に、時代や地域に密着した店舗づくりを展開している。電子マネー「ゆめか」の発行枚数も堅調に伸び、多くのお客様にご利用頂いている。POSデータ、電子マネーカードデータなど商品・顧客購買状況のデータが豊富に取得できる環境が整いつつあり、この大量なデータの分析をもとに、いかに販売促進に活用するかが課題となっている。自社データのみならず、第三者が保有するビッグデータも視野に入れ、データ解析から具体的なアクションプランの計画立案に繋がる研究を期待する。ビッグデータ特区広島県の企業として、ビッグデータの利活用で地域産業の活性化に寄与したいと考えている。
2	シグマ株式会社	自動車業界における検査・計測(ビッグデータ)の活用	自動車・産業用精密部品製造・販売、セキュリティ商品開発・製造・販売のシグマ(広島県呉市)は、あの「戦艦ヤマト」を生んだ呉市で創業し約80年になる。 マツダ様向けに精密部品を作り続け、現在ではトヨタ様・ホンダ様にも部品を提供させて頂いている。 レーザー傷検査装置は産業技術総合研究所と2000年から開発をスタートし、2006年からお客様に導入させて頂いている。これまで大手自動車メーカー・自動車部品メーカー様に100セット以上の導入実績があり、各種部品特にダイカスト部品や切削部品の内径表面をレーザーで検査できる装置の製造販売の強化に取り組んでいる。 2014年には、経済産業省「グローバルニッチトップ企業100選」に選ばれた。国内外の川下ユーザーのニーズをもとに、高精度でかつ高速化を図るとともに計測の高度化に取り組んでいる。合わせて、産業ロボットに組み込むことで製造現場の検査・品質管理の自動化を図っている。 このような環境下で画像データ処理・位置情報による検査・計測の高度化が図れている。欠陥の判別とともに、内部径等の寸法・真円度など加工の仕上がり状態を高速・高精度で計測でき、継続した製造現場でのデータが取れ装置も開発中である。 IoT時代にむけ、ビッグデータとして活用する仕組み作りができれば、顧客サービスの向上に合わせて、検査・計測システムの向上につながると考えている。
3	武田薬品工業株式会社	ソーシャルネットワークの解析による、患者の声の収集と創薬への応用 デバイス・ヘルスケアデータの活用	未来を拓く地方協奏プラットフォーム運営協議会事務局までお問い合わせください。

4	日本IBM株式会社	電力自由化に向けたサービスビジネスとIT技術	<p>電力自由化の時代が日本にも到来します。従来の大規模な発電設備を持つ大手電力会社が電力需要家(消費者)に向けて一方向で電力供給サービスを提供する社会から、電力の需要家も分散電源を持ち、必要な電力を自ら発電したり他の需要家へ供給する双方向の電力需給サービスを可能とする社会への移行が期待されています。そうした社会に向けたインフラとしては、スマートメータにより大口から小口に至る需要家までその消費電力の利用状況が把握でき、発電する電力供給設備も、大型から小型の自家発電機や太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギー、燃料電池や蓄電池等の様々な分散型電源が利用できるような整備が進んでいます。そして、これら電力の供給装置(発電機)や家電などの電力消費装置が、一つのネットワークに接続され、瞬時にその発電量や消費量などの膨大なデータが利用可能となります。</p> <p>本ワークショップでは、先に自由化された海外事例を参考に、“電力エネルギーに関するビッグデータを利用してより便利なサービスを創出するビジネス”を想像し、そのビジネスに必要なIT技術とその課題を検討します。</p>
5	日本たばこ産業株式会社	ほっとする瞬間をとらえるビッグデータ	<p>JTはタバコ・食品・医薬を主たる事業とし、「ひとのときを想う」というコーポレートスローガンのもと、人の心に価値を届けることを目標にビジネスを展開してきた。特に主たる事業であるタバコ事業や過去に行っていた飲料事業は、いわゆる「嗜好品」ビジネスに分類される。これら嗜好品は、「効率を上げるため」「より健康になるため」「より経済的に豊かになるため」といった一般的な価値とは異なり、「日常の小さな幸せ」という提供価値の実現をゴールとする商材である。JTはこの「日常の小さな幸せ」をお客様に提供し「ほっとする瞬間」を楽しんでいただくことを目指している。</p> <p>「ほっとする瞬間」は主観的に感じられるものであり、客観的な測定指標により定量化することは極めて難しい。もし「ほっとする瞬間」を定量的に評価することができるようになれば、これまでタバコや缶コーヒーなどで提供してきた嗜好品の価値を他の手段でも提供できるようになるかもしれない。JTは本ワークショップにおいて、タバコや缶コーヒーといった既存の商材にはとらわれず、「ほっとする瞬間をとらえるビッグデータ」を用いたビジネス展開を考えてみたい。</p> <p>我々は議論を進めるうえで、次の3段階のステップにおいて議論したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ほっとする瞬間」の定量的計測における課題設定 「ほっとする瞬間」を脳・生理・心理学的にどう定義し、どういった指標でそれを測定可能か？ 2. 「ほっとする瞬間」の計測に必要な技術・方法の選定 測定する対象が決まったとして、実際に測定するためのセンサー・バイオマーカーなどをどう設定し、どのようにビッグ データ化するか？ 3. 「ほっとする瞬間」測定法を活かしたビジネスを見越した研究開発プラン 「ほっとする瞬間」を捉えることで「どのようなビジネスが可能になるか?」、既存の商材・研究開発に捉われずに、将来に向けてのブレインストーミング。

6	広島県	ビッグデータ特区に係る規制緩和	<p>広島県は、今治市とともに「国家戦略特区」に申請し、平成28年1月「国際交流・ビッグデータ活用特区」の指定を受けた。本特区のもと、「民間の能力が十分に発揮できる世界で一番ビジネスのしやすい環境を整備し、経済成長につなげる」を目標に必要な制度を構築していく。</p> <p>この制度検討の結果、イノベーションを通じて新しい経済成長のステージが生まれ、魅力ある地方としての雇用・労働環境の創出を図っていく。</p> <p>具体的には、感性COIを始めとしたプロジェクトや各企業等で蓄積されるビッグデータの円滑な収集・分析・ビジネスへの活用をテコとして、規制緩和の取り込み等の必要な制度整備を進めたい。</p> <p>今回のワークショップでは、さまざまな分野での研究現場や経済活動現場での課題の抽出を行う中で制度設計につながることを検討していただく。</p> <p>併せて、円滑にビッグデータの収集・分析を行う仕組みについても議論し、新ビジネスの創出、商品開発や研究開発の促進につなげていきたい。</p>
7	鳥取県	オープンデータの利活用	<p>鳥取県では、保有するデータを「鳥取県オープンデータカタログ」として、現在137項目のデータを公開している。利用規約の遵守を条件に民間企業や個人によって自由に二次利用できることとし新たな項目追加も実施しながらその活用を推進している。</p> <p>これまで、空き家の利活用、中山間地域の生活支援、健康寿命の引き上げ、障がい者の生活改善などをテーマにアイデアソン・ハッカソン等を行いデータの利活用を検討してきた。国際オープンデータデイにも別テーマで開催したが、具体的な事業展開やサービス提供までに至っておらず、継続性が課題となっている。</p> <p>今後は、具体的活用事例の創出とともに利用促進のための継続したネットワークづくりを企画していくこと等が必要と考えられる。</p> <p>今回のワークショップでは、「どのような目的や価値を目指すか」「地域の皆さんに望まれる取り組みをするには」という面から取り組み課題を抽出していく。併せて、関係する分野の方々の融合により、どのように具体的解決を図るかのプラン作りにつなげるかを整理していきたい。</p>